

- 17 . あなたのしもべを豊かにあしらい、私を生かし、私<sup>が</sup>あなたのことばを守るようにしてください。
- 18 . 私の目を開いてください。  
私<sup>が</sup>、あなたのみおしえのうちにある奇しいことに目を留めるようにしてください。
- 19 . 私は地では旅人です。  
あなたの仰せを私に隠さないでください。
- 20 . 私のたましいは、いつもあなたのさばきを慕い、碎かれています。
- 21 . あなたは、あなたの仰せから迷い出る高ぶる者、のろわるべき者をお叱りになります。
- 22 . どうか、私から、そしりとさげすみとを取り去ってください。  
私はあなたのさとしを守っているからです。
- 23 . たとい君主たちが座して、  
私に敵対して語り合ってもあなたのしもべはあなたのおきてに思いを潜めます。
- 24 . まことに、あなたのさとしは私の喜び、私の相談相手です。

17 . あなたのしもべを豊かにあしらい、私を生かし、私<sup>が</sup>あなたのことばを守るようにしてください。

<sup>^</sup>rbd>hrmvaw>nyxa, <sup>^</sup>D@.l;l;l m> Qal.Impf. live I m> Qal.Impv. 気前よく 寛大に 豊かに 十分に 惜しみなく たくさん  
 rnv; nyx Qal.Impf. keep, have charge of deal out to, do to, do good unto, l;l;deal bountifully with;  
 潤沢 recompense, repay, requite, in a bad sense, (悪い意味で) 報いる, 復讐する  
 rBDl ことば、人に対する変わること、神の御旨 wean a child 乳離れさせる 熟れる 熟する 成熟させる (131 2)  
 確定的な (definit) 定められた神の意志表現、人に対する神の御旨 (十戒) Ps. 13:6 私は主に歌を歌います。主が私を豊かにあしらわれたゆえ。  
Ps. 103:10 私たちの咎にしたがって私たちに報いることもない。  
Ps. 116:7 私のみたましいよ、おまえの全きいこいに戻れ。  
主はおまえに、良くてくださったからだ。  
Prov. 11:17 真実な者は自分のたましいに報いを得るが、  
Isa. 18:5 刈り入れ前につぼみが開き、花びさが育って、酸いぶどうになる時

18 . 私の目を開いてください。

私<sup>が</sup>、あなたのみおしえのうちにある奇しいことに目を留めるようにしてください。

<sup>^</sup>trAl mi tAal pnl hj yBaw> <sup>yy[el G</sup>  
 j bñ" Hiph.Impf. hl G" Pi.Impv. uncover, nakedness, disclose, make known,  
 al P' look, look upon, behold, regard, shew regard to, pay attention to, consider  
 Niph.Pt. wonder, wonderful, marvellous things 人の理解をはるかに超えた、驚くべき、すばらしい神のみわざ(さばき、救い)  
 hrAT : 「みおしえ」範囲の広い教えのことで、神の教え、人の教えの両方に。教えの全体、律法、モーセ五書等を指す。

19 . 私は地では旅人です。

あなたの仰せを私に隠さないでください。

ʾyt,omi yMni rTsT;l a;  
rts' Hiph.Impf.

conceal, hide ~ から隠す

#rab' ykiθ' rGE  
rGE

stranger 87, alien 1, sojourner 1,

rGE

土地、権利を持たない一時滞在者、異国人、寄留者、在留異国人、  
sojourner, temporary dweller, new-comer, foreigner (no inherited rights)

私はあなたがたの中に居留している異国人ですが

あなたの子孫は、自分たちのものでない国で寄留者となり、彼らは奴隷とされ、四百年の間、苦しめられよう。

彼はその子をゲルシヨムと名づけた。「私は外国にいる寄留者だ。」と言ったからである。 Exod. 2:22

地は買戻しの権利を放棄して、売ってはならない

地はわたしのものであるから。あなたがたはわたしのもとに居留している異国人である。 Lev. 25:23

「在留異国人、みなしご、やもめの権利を侵す者はのろわれる。」民はみな、アーメンと言いなさい

私たちは、すべての父祖たちのように、あなたの前では異国人であり、居留している者です。

地上での私たちの日々は影のようなもので、望みもありません。

歴代29 :

15

私の祈りを聞いてください、主よ。私の叫びを耳に入れてください、私の涙に、黙っていないでください

私はあなたとともにいる旅人で、私のすべての先祖たちのように、寄留の者なのです。

Ps. 39:13

20. 私のたましいは、いつもあなたのさばきを慕い、砕かれています。

t[el kb. ʾyj P'vni l a, hbāt:l. yvni hsr'G

時、時期、時代

longing

sr'G

Qal.Pf. to be crushed, 砕かれる、押しつぶされる、粉々にされる

私の歯を小石で砕き、灰の中に私をすくませた。

j P'vni: 「さばき」法律用語(裁判, 判決, 判決文, 法廷, 手つづき, 定め, 決定, 公正, 正しさ, 慣例, 裁きの執行)

21. あなたは、あなたの仰せから迷い出る高ぶる者、のろわるべき者をお叱りになります。

ʾyt,omi ~ygb; ~yrWa] ~ydZETr>G  
~ydZE r'G

hg'v'

Qal.Pt.

罪を犯す、道を踏み外す、

それる、酔っぱらってさまよう

(常にその愛に酔うがよい。箴言5:19)

rra,

Qal.Pt.Pass. curse.

罰せらる、生気な、無礼な

Qal.Pf. rebuke - father his son. 叱る、叱りつける、腐る、汚す

あなたを責めない」とわたしは誓う。イザヤ54:9  
それなのに、なぜ今あなたはあなたがたに預言しているアナトテ人エレミヤを責めないのですか。エレミヤ29:27

「サタンよ。主がおまえをとがめている。

見よ。わたしは、あなたがたの子孫を責め、あなたがたの顔に糞をまき散らす。

あなたがたの祭りの糞を、あなたがたはそれとともに投げ捨てられる。

わたしはあなたがたのために、いなごをしかって、あなたがたの土地の産物を滅ぼさないようにし、

hvc'mi: 「仰せ」権威ある明確な命令 . commandment

22. どうか、私から、そしりとさげすみとを取り去ってください。

私はあなたのさとしを守っているからです。

yl'ren' ʾytdōeyKi

z'bw hPrx, yl;[me]G,

笑いでさ、さげすみ

roll (石を)ころがす、転がして除ける

軽蔑・嘲り taunt 67, 恥 3, 叱責 2

汚名、非難、軽蔑、そしり

hd'[e

「さとし」確認するという意味で、「あかしの板二枚、あかしの箱、あかしの幕屋、さとしの書」 「十戒」のこと

rcn': Qal.Pf. Watch, guard, keep

hPrx,

彼女はみごもって男の子を産んだ。そして「神は私の汚名を取り去ってくださった。」と言って、

彼らに言った。「割礼を受けていない者に、私たちの妹をやるような、そのようなことは、私たちにはできません。それは、私たちにとっては非難的ですから。

ダビデはナバルが死んだことを聞いて言った。「私がナバルの手から受けたそしりに報復し、

「あの州の捕囚からのがれて生き残った残りの者たちは、非常に困難の中にあり、またそしりを受けています。

そのうえ、エルサレムの城壁はくずされ、その門は火で焼き払われたままです。」

「お聞きください、私たちの神。私たちは軽蔑されています

その人は、舌をもってそしらず、友人に悪を行わず、隣人への非難を口にしない。

しかし、私は虫けらです。人間ではありません。人のそしり、民のさげすみです。

私は、敵対するすべての者から、非難されました。

自分を打つ者に頬を与え、十分そしりを受けよ。

地のちりの中に眠っている者のうち、多くの者が目をさます。ある者は永遠のいのちに、ある者はそしりと永遠の忌みに。

## Zb

ユダは言った。「われわれが笑いぐさにならないために、あの女にそのまま取らせておこう。私はこのとおり、この子やぎを送ったのに、あなたがあの女を見つげなかったのだから。」

高ぶりとさげすみをもって。

君主たちをさげすみ、力ある者たちの腰帯を解き、

主は君主たちをさげすみ、道なき荒地に彼らをさまよわせる。

私たちをあわれんでください。主よ。私たちをあわれんでください。私たちはさげすみで、もういっぱいです。

私たちのたましいは、安逸をむさぼる者たちのあざけりと、高ぶる者たちのさげすみとで、もういっぱいです。

人はその思慮深さによってほめられ、心のねじけた者はさげすまれる。

悪者が来ると、侮りも来る。恥とともに、そしりも来る。

### 23. たとい君主たちが座して、

私に敵対して語り合ってもあなたのしもべはあなたのおきてに思いを潜めます。

<sup>^yQxB. xyfy ^Də.;</sup> <sup>W.Bəɪ yBi ~yrf' Wəvy' ~G</sup>  
<sup>I ɔɔ Nɪ.Pf.</sup> <sup>ɔvy' Qal.Pf.</sup>

xyfi Qal.Impf.

rf; 王子,頭,支配者,指導者,君,役人,將軍,監督者

meditate upon, study, talk to, muse

私のたましいの苦惱の中から嘆きます。

夕、朝、真昼、私は嘆き、うめきます

自分の心と語り合い、

私は、あなたの戒めに思いを潜め、あなたの道に私の目を留めます。15

あなたの御手のわざを静かに考えています。

これは、あなたが歩くとき、あなたを導き、あなたが寝るとき、あなたを見守り、あなたが目ざめるとき、あなたに話しかける。

「おきて QX0 : 刻み付けられたもの、刻印されたもの。定め、制定、命令

### 24. まことに、あなたのさとしは私の喜び、私の相談相手です。

<sup>`ytic'[] yvæ; y[ v[[]y; ^ytdəe~G</sup>  
<sup>vyai delight</sup> <sup>~G also, moreover, emphasizing</sup>

hd'[e 「さとし」確認するという意味で「あかしの板二枚、あかしの箱、あかしの幕屋、さとしの書」、「十戒」のこと

こと

hc'[e counsel, advice ytic'[] yvæ; = my counsellors ( Atc'[] vyai counsellor )

助言、はかりごと、計画、忠告、慰め、顧問、 このふたりの間には平和の一致がある。』

## 説教

詩篇 119 篇は 8 節ずつからなる 22 の段落に分けられます。

それぞれ 22 の段落の分は、それぞれ「アレフ a」「ベット B」（英語で言うと A,B）という具合に、

ヘブル語アルファベットの各文字が八つずつ見事に冒頭に並び、各段落を「アレフ a 詩篇」「ベット詩篇」などと呼んでいます。

全篇 176 節からなる、詩篇の中で最も壮大かつ長いものですが、主題は極めて明確で、この詩篇全篇の中心テーマは神のことばです。

神のことばが私たちの人生にいかにか決定的なものであるかが歌われているのです。

それで各節の文には

「みおしえ hrʾl」、「さとし hdʾlq」、「戒め dWp.」、「おきて qxq」、「仰せ hwcmj」、「さばき j Pvmj」、「ことば rbD」、「ことば hrmaj」、「道 %rD xraq」という十のことばが入れ替わり立ち替わりほぼ必ず使われて、私たちの人生に神のことばがどんなに大切であるかが強調されます。

17 - 24節は「ギメルg詩篇」で、各節の頭はヘブル語アルファベットの「ベツ g(Gのこと)」で始まります。詩人は神さまに二つの願いを祈ります。

最初の願いは、「あなたのしもべを豊かにあしらってください。」との願いです。

## 17. あなたのしもべを豊かにあしらい、私を生かし、私があなたのことばを守るようにしてください。

「豊かにあしらう」とは、「豊富に、惜しみなく、気前よく扱う」とか「乳離れさせる、成熟させる」といった意味です。そして、

神さまが私たちを豊富に満たして、寛大に、気前よく育ててくださるならば、「私は生き、神の戒めを守りましょう。」と告白します。

神さまが私たちに恵みを満たしてくださる時に、自分にいのちが吹き込まれ、神のことばを守るようになる、というのです。

私たちは、生まれながらの自分の力で神さまのみこころを行うことはできません。

神さまから力をいただかなければ、神さまのみこころを行うことはできません。

私たちが良きわざに励むことができるのは、ただひとえに神さまの恵みなのです。

それで、使徒パウロは言いました。

「ところが、神の恵みによって、私は今の私になりました。

そして、私に対するこの神の恵みは、むだにはならず、私はほかのすべての使徒たちよりも多く働きました。

**しかし、それは私ではなく、私にある神の恵みです。」** コリント 15:10

「私たちは神の作品であって、良い行ないをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。

神は、私たちが良い行ないに歩むように、**その良い行ないをもあらかじめ備えてくださった**のです。」 エペソ 2:10  
マザーテレサは言いました。

「主よ。今日も私が貧しい人に施すことができますように。**でも、その前に、私が人に施す物を私に与えてください。」**  
このように、良きわざは神さまの恵みです。

神さまから恵みをいただかなければ、私たちは神さまのみこころを行うことはできません。

罪に死んでいた私が、生きて、神さまのみこころを行うのに必要なのは、寛大な、気前の良い、豊富な神さまの恵みです。

それで、詩人はこう祈ったのです。

**「あなたのしもべを心広く寛大に受け入れ、気前よく豊富に満たして養ってください。**

**そうすれば、私は生きて、神の戒めを守りましょう。」**

二つめの祈りは、「私の目を開いてください。」という祈りでした。

そして、神さまが目を開いて下さる時に、

「神の律法トラーのうちに記された、

人知をはるかに超えた、驚くべき、すばらしい神さまのさばきと救いのみわざを見るでしょう(18節後半直訳)。」と告白します。

## 18. 私の目を開いてください。

**私が、あなたのみおしえのうちにある奇しいことに目を留めるようにしてください。**

つまり、神の律法トラーのうちに、人知をはるかに超えた、驚くべき、すばらしい神さまのさばきと救いのみわざが啓示されている、それを発見することができるよう自分の目を開いてくださいと詩人は祈るのでした。

考えてみると、これら二つの祈りはどんなに大切な祈りでしょうか。

まず何より、

神のことはのすばらしさを理解することがなければ私たちの人生に良き変化は生じません。

神のことは何より価値あるものです。

この世の金銀にまさる宝です。

私たちの人生に決定的な影響を与えるものです。

死に行く者にもなお希望を与えるものです。

死人をもよみがえらせる、それが神のことはです。

神のことは、私たちにとって、まさにいのちというべきものなのです。

使徒パウロは言いました。

「私は福音を恥とは思いません。

福音は、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、信じるすべての人にとって、救いを得させる神の力です。」(ローマ 1:16)

「十字架のことは、滅びに至る人々には愚かであっても、救いを受ける私たちには、神の力です。」(ローマ 1:18)

しかし、神のことがどんなにすばらしいものであったとしても、人間がそれを悟ることがなければそれは全く用をなしません。

それで、詩人は、自分の目が開かれて神のことはのすばらしさをよく悟ることができるよう祈ったのです。

そして、それだけではなく、悟った神のことはを自分が実践することができるよう、神さまの恵みを祈り求めたのです。

つまり、知識だけでなく、頭でっかちなだけでなく、実践も伴うよう、それを実践することができるよう祈り求めたのです。

知識もなくただ熱心だけなら異端や迷信に走って行くでしょうし、

知識はあっても行いのない信仰もまた、使徒ヤコブの言うように「死んだもの」です。

「それと同じように、信仰も、もし行ないがなかったなら、それだけでは、死んだものです。」(ヤコブ 2:17)

信仰は、正しい教理と正しい実践とが肝心なのです。

教理と実践を兼備しなければなりません。

それで、詩人は、目を開いてください、恵みを十分に満たしてください、と祈ったのです。

神さまの恵みとみこころを知って、そのみこころを行うようにしてください、と祈ったのです。

そして、さらに詩人は告白します。

## 19. 私は地では旅人です。

**あなたの仰せを私に隠さないでください。**

「旅人」と訳される言葉は、

他の所では「異国人、寄留者、在留異国人」と訳され、要するに「その土地の国籍や土地権利を持たない一時滞在者」のことです。

それは、言うなれば、最も不安定な身分です。

律法に於いては、「みなしご、やもめ」と並んで登場する、最も貧しい身分の代表です。

律法の保護がなければ、容易にその人権を侵害されるような者です。

人権を侵害されてもどこにも訴えようのない、全く心細い社会的な弱者です。

何ら保護や権利を持たない部外者です。

使徒パウロは、このような「異国人」のことを、「この世にあって望みもなく、神もない人たち」（エペソ 2:12）と呼んでおります。

その国に住んではいるんだけど、その国の人ではない、

選挙権もないし、健康保険にも入れないし、基本的人権も保障されない、それが「異国人、寄留者、在留異国人」「旅人」です。

詩人はここで「私は地では旅人です。」と告白します。

勿論、この時、詩人が本当に旅行中であったか、あるいは外国出張中であったのかも知りません。

でも、おそらくそうではなかったと思います。

「諸国の偉い君主たち」が攻めてくる（23）と言われていまして、

むしろお城に住むような、金持ちで身分の高い人であったのかも知りません。

でも、詩人は自らを「旅人」と自称しているのです。

では、一体、詩人は自分がどこの国に属していると言うのでしょうか。

それは言うまでもなく、天国、神の国です。

それで自らが「地では」旅人であると説明しているのです。

### 「私は地では旅人です。」

それでは、「地」ならぬ「天」ではどのような身分を保有しているのかというと、それは要するに正式な「国民」ということになります。

天国に国籍を持つ「国民」ということです。

天国に相続する土地を持つ、天国の「国民」なのです。

だから、「地では旅人」なのです。

つまり、詩人は、「私は地では旅人です。」と告白することで、

自らが地上の国に国籍を持たない「天国の国民」であることを暗にここで告白しているのです。

地上に於ける生活はどれも住みにくい、

何か肩身の狭い思いで毎日暮らしているかのようだ、

心細く、不安定に、貧しく生活しなければなりません。

それは全く旅人の生活です。

その国にいてもその国の人ではない、何ら権利も保障もない部外者の「異国人、寄留者、在留異国人」です。

でも、詩人はそれで卑屈になったり暗くなったりするのではなく、

むしろ積極的に、自らが天の御国に国籍と土地を持つ「天国の民」であるのだということを神さまの前に力強く告白しているのです。

それで、この詩人にとっては、神のことばはいのちでした。

詩人にとっては、この世の法律よりも神の法律の方が大切でした。

「私は地では旅人です。」

こう告白した後、詩人は祈ります。

「あなたの仰せを私に隠さないでください。」

「仰せ」は21節でも出てくる神の命令、戒めのことです。

詩人にとっては、この世の法律よりも神の法律の方が大切だったのです。

この世にあっては、神の命令よりもこの世の法律の方がはるかに目につきます。

神の命令よりもこの世の権力者の命令の方が自分たちを支配しているかのように見えます。

でも、詩人はこの世の人ではありません。

神の国の人です。

それで、

この世の法律ではなく、神さまの命令をしっかりと見つめて生活できるよう、

「あなたの仰せを私に隠さないでください。」と神さまに祈り求めたのでした。

そして、さらに、告白します。

## 20 . 私のだましいは、いつもあなたのさばきを慕い、砕かれています。

「さばき」は法律用語で、裁判、裁判の一連の手続き、判決の執行、慣例のことです。

「砕かれる」とは、「木っ端微塵に、あるいは粉々に押しつぶされる、砕かれる」ことを意味します。

つまり、この詩人は、この世にありながら、見た目の現実としては、

この世から揉みくちやにされて、踏んだり蹴ったりと、

日々「押しつぶされる」「砕かれ」ているのですが、

でも、彼の信仰の目はしっかりと神さまをとらえていて、

神さまの正しい取り扱い、さばきにいつも注目し、

その神さまの正しい取り扱いとさばきによって自分が取り扱われることを

毎日切に祈り求め、粉々に押しつぶされ、砕かれている、と告白するのでした。

詩人にとってはこの世からどう思われるか、どのような仕打ちを受けるかということは全くどうでもいいことでした。

むしろ、詩人が唯一の行動基準としているのは「世のさばき」ではなくて「神のさばき」であったのです。

そして、「神のさばき」について

「あなたは、あなたの仰せから迷い出る高ぶる者、呪わるべき者をお叱りになります。」(21)と解説し、

詩人自身は神のさばきを基準に「さとし(十戒)」を守って生きているために

この世から「そしりとさげすみ」を受けているためそれを「取り去って下さい」と祈ります。

## 21 . あなたは、あなたの仰せから迷い出る高ぶる者、のろわるべき者をお叱りになります。

## 22 . どうか、私から、そしりとさげすみとを取り去ってください。

**私はあなたのさとしを守っているからです。**

そして、

この世の大きな権力を前にしてもそれに怯んで罪を犯し、

そのことで神さまに呪われようにならないよう、

あくまで変わることなき神の「おきて」をひたすら念頭に置いているというのでした。

## 23 . たとい君主たちが座して、

**私に敵対して語り合ってもあなたのしもべはあなたのおきてに思いを潜めます。**

以上を詩人は総括して言います。

## 24．まことに、あなたのさとしは私の喜び、私の相談相手です。

「まことに、あなたのさとし（十戒のこと）は私の喜び、

私の相談相手（カウンセラー、顧問、慰め、忠告、助言、計画、はかりごと）です。」（23）

それにしても、このような「旅人」としての生き方は何ともダイナミックなものではないでしょうか。

「私は地では旅人です。」

こうやってしまったら、この地上の営みはことごとく色あせてしまうのです。

天国に国籍があるのですから、

何より大切なのは神さまのみことば、神さまの法律、神さまの命令なのであり、

この世のものはすべてあまり大切なものではなくなってしまうのです。

例えば、お金、土地、財産、学歴、権力、

今たけなわの受験も、恋愛も、仕事も、キャリアも、健康も、家族も、この命さえも

私たちがこの世で最も執着があり、大切にしているものも、絶対的なものでなくなってしまいます。

あればあったでいいかもしれないけれど、無けりゃ無いでも全然構わないものになってしまいます。

つまり、たとえリストラされたり、失恋したり、受験で失敗しても、それで絶望して死ぬほどの問題じゃなくなるのです。

旅人なんですから。

この世では旅人なんですから。

この世の者ではないんですから。

天国に国籍があるのですから。

神さまから見捨てられたら、これは大変です。

でも、この世で多少失敗しても、あるいは大きく失敗しても、そんなことは全然問題ではありません。

地上のことに望みを置かないのです。

天に望みを置きます。

だから、大胆に生きることができるのです。

地上に怖いものがないからです。

地上には、怖いものはありません。

だから、権力者を敵に回しても、びびりません。

権力者と言えば、武力を持つ者です。

生殺与奪の権を持つ者です。

へたなことを言えば殺されるかも知れません。

しかも、そんな権力者が束になってかかってきても、全然恐れるに足りません。

なぜなら、天地を審判なさる神を知っているからです。

肉体も魂も共にゲヘナの火で永遠に滅ぼすお方を知っているからです。

だから、肉体を殺しても魂を殺すことのできない者など、恐れるに足らないのです。



私たちはどうでしょうか。

私たちも「地では旅人」ではないでしょうか。

神さまはかつてイスラエルにこう言われました。

「あなたは在留異国人をしいたげてはならない。

あなたがたは、かつてエジプトの国で在留異国人であったので、

在留異国人の心をあなたがた自身がよく知っているからである。」（出 23:9）

さらには、こうも言われました。

「地は買い戻しの権利を放棄して、売ってはならない。

地はわたしのものであるから。

あなたがたはわたしのものに居留している異国人である。」（Lev. 25:23）

私たちは、この地上にほんの束の間の一時の間生きているに過ぎない「寄留者」「旅人」なのです。

すぐにこの地上を去って、死んで、永遠の天国に行くのです。

それなのに、財産に固執していられますか？

地上の宝に固執していられますか？

死ぬんです。

いつか必ず、遅かれ早かれ、死ぬんです。

どんなに大きな土地を所有していても、どんなに貯金を貯め込んでも、会社を大きくしても、いつか人の手に渡ってしまうんです。

いつまでも持っていられないんですよ。

必ず手放さなきゃならない時が来るんですよ。

この詩人の告白通りに「私たちは地では旅人」なのです。

私たちみんなが、例外なく、実は旅人なのです。

自分が気がついていようといまいと「旅人」なのです。

期限付きでこの地上に生かされている「旅人」なのです。

このことを私たちはしっかりと自覚しなければなりません。

「旅人」には自由があります。

魂の解放があります。

人の顔色を窺う必要が全くない、

ただ神さまだけを畏れて、そのみこころを行えばいいんです。

自由に、「生きて」、神のみこころを行うのです。

「私は地では旅人」

歴代のキリスト者はこの信仰告白に生きてきました。

イエスさまは、

「狐には穴があり、空の鳥には巣があるが、

人の子には枕する所もありません。」と言われて「旅人」の生活をめぐり、最後は若くして十字架で死んで天国に行かれました。

ヘブル人の記者はこう告白しました。

「これらの人々はみな、信仰の人々として死にました。

約束のものを手に入れることはありませんでしたが、

はるかにそれを見て喜び迎え、地上では旅人であり寄留者であることを告白していたのです。」ヘブル 11:13  
ペテロも、自分たちが地上の者ではないので、戦えと呼びかけました。

「愛する者たちよ。

あなたがたにお勧めします。

旅人であり寄留者であるあなたがたは、たましいに戦いをいどむ肉の欲を遠ざけなさい。」

ペテロ 2:11

パウロはさらに進んで、

「私たちの国籍は天にある。」と告白しました。

「私は地では旅人」

私たちもまたこう告白して、自由に、そして大胆に神さまのみこころをなしてこの地上に神の栄光をあらわしていきたいと願います。